

田村市立古道小学校

教科名等：道徳

単元(題材)名：たのもしなお父さん

「おとうさんは、なおい名人」

学 年：第2学年

実施状況

まず、家庭でのお手伝いについて話し合い、進んで家の手伝いなどを行っている経験を思い出させ、自分が家族の役に立っているという喜びを感じられるようにしました。その後、教材文を読み、父親が、家族のために一生懸命働く姿や、地域の人から頼りにされている様子を見たときの主人公の気持ちを考えました。最後に、家族の家庭での仕事について思い出させ、家族が自分の家庭生活を様々な場面で支えてくれていることに気づかせ、感謝の気持ちを持てるようにしました。家族にもその気持ちや気づきを知らせられるよう、自分たちの気持ちを手紙に書きました。

児童・生徒の感想

- ・ お父さんは、お母さんの帰りが遅い時にご飯を作ってくれます。とてもおいしいので、これからも、お父さんの作ったご飯が食べたいです。
- ・ お母さんは、仕事から帰ってきて、いろいろな仕事をしているので大変だなと思います。これからは、できるお手伝いをしようと思います。
- ・ ぼくは、よくお母さんから料理を教えてもらいます。今度は、家族にぼくの作った料理を食べて欲しいと思います。

参観者の感想

- ・ 親が仕事をしている姿を見て、子どもが進んで手伝おうという気持ちになってくれたらいいと思いました。
- ・ 子どもにもできそうなことは、何でもやらせてみたいと思いました。
- ・ 男性・女性の役割をあまり意識しないようにしていきたいと考えています。
- ・ まだ、「男女共同」という言葉に慣れていない大人もいるので、子どものうちから授業などで考える場を持てるのはいいことだと思います。

指導者の感想

普段は、家族の支えがあって自分の生活が成り立っているとは考える機会があまりないと思います。この学習を通して、家族に感謝の気持ちを持つことができたと思います。授業参観日ということもあり、家族が児童の発表を聞くこともできたので、家族にとっても励みになったように思いました。また、自分も家族の一員であり、できる手伝いをしていきたいと思った児童もあり、親子で今後の家庭生活を考えるきっかけ作りができたのではないかと思います。